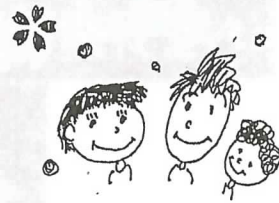


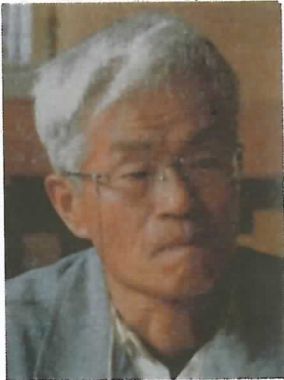
# よりそ<sub>う</sub>

Side by Side



増刊号

編集責任：水野



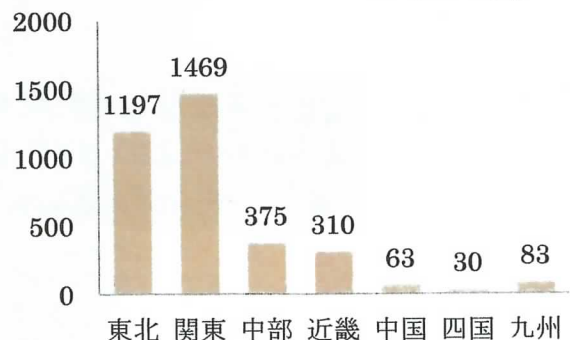
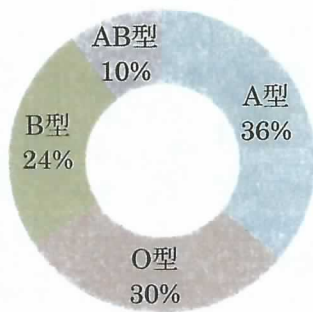
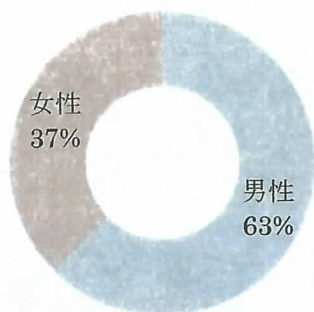
## よくぞ続いているニュース「よりそ<sub>う</sub>」

三好 淳二(大阪)

遠野まごころネット・個人参加ボランティア(体育館組?日帰えりも?)ニュース「よりそ<sub>う</sub>」を創刊した者です。4/20に遠野まごころネットに入りました。当時、このネットが立ちあがって13日目(4/8立ち上げ)この日、体育館・和室に分かれて12名でした。4/21 16名→18名→20名と越え→30名前後→43名→64名と増え続け、これは、ボランティアの皆さんの心とつながる「ニュースの必要性を個人的に思い、意を決して、勝手に4/6創刊号を作り、全員に配布。感想を聞いてみると、「いいものを作ってもらった」「ぜひ続刊」という声があり、発行を3号まで続け、大阪へ帰りました。

「よりそ<sub>う</sub>」の題名は、私の活動初日4/21の朝、ネット総隊長林崎慶治さんのお話の中に「被災された方々によりそ<sub>う</sub>気持ちで活動してほしい」というのが強く印象に残り、プラス「ボランティア同士のみなさんが互によりそ<sub>う</sub>」という事と兼ねて命名しました。もし必要性がなければ、3号廃刊したし、必要性があれば、「誰かが」作成されたら、と思っていたのですが、5/25来てみると、なんと!!壁にスラーと貼ってあるではありませんか。編集者も100名近く、編集責任も五代目になっており創刊者として、嬉しい限りです。さらに驚かされたのは英語版が8枚(5/25現在)できているのには、もう、重然として……。「あのニュースをインターネットで見ると決まってきた」という事を聞いた時は、本当に「毛てよかったです」と思いました。このニュースをぜひ“みんな”のものにし、現地の活動に活かされることを期待します。願わくは、全員配布にして早く嬉しくのびたい。 (あかり)

### 遠野まごころネット登録者状況(5/25現在の個人登録者)



※ / ( ) ボランティアミーティングはPM5:30~@体育館

# 被災から2カ月を経過して



遠野まごころネット 副代表 多田一彦

遠野災害本部に向かおうとしたが、普段のようには行けなかった。私は山火事の間を通り抜けて向かった。道路脇に眼をやると寝転んでいる人が見えた。近寄ってみるとその人は既に亡くなっていた。災害本部に着くと中はパニック状態だった。

私は先ず、どこかの避難所に何人の人が居るのかを調べるための地図を作ろうと避難所を巡った。実際大槌の避難所には約500人の方が宿泊をしていてギュウギュウ詰め。隣の弓道場にある支援物資は到底足りるものではなかった。そこで瓦礫の撤去さえできれば桜木町の体育館を避難所の代わりに使用できて、大槌の500人の方々を分散させる事が出来るのではないかと考えた。そこでボランティアセンターを立ち上げて皆で協力し合うことを決意した。

当時社協からは「団体だけを受け入れましょう」「大手企業からの物資のみを受取ってください」等と言われたが、個人で来る人の意思を大事にしようと思った私は、これらの言葉を押し切って個人ボランティアを受入れることにした。これが遠野まごころネットのルーツである。

全国から届けられる物資には手紙と共に送られてくる物が多かった。その内の一つに静岡県伊豆市の「ひじき」があった。本来、岩手の沿岸部はひじきの名産地だが今回の震災で機能していない。同じ沿岸部でひじきを生産している伊豆市が送ってくれたのである。まごころ

ネットではこれを「友情ひじき」と名付け商品の流通と経済を少しでも成り立たせるために販売をした。

被災地の現状を周囲に広めることが如何に大切か、被災地の現状を観光地化しても世間に知らせるべきだと私は考え、メディアからの取材に応じている。私にとってもまごころネットやこちらに来ているボランティアの皆さんは自慢できる存在だし、これからも多くの方に復興に向けた手助けをしていただければと考えている。しかし、あくまでボランティアは被災地が自立するための応援団であり、自己管理は勿論、個人の特徴を出し過ぎずにいることが大事なのではないだろうか。そして全体ミーティングで長々と話すよりも個人間でのコミュニケーションを取り合い、活動期間中だけでなくこれから先も関係を繋げていくべきだと考えている。

5月17日 全体ミーティングで話された内容より

## 〈編集後記〉

- ◆ 壁新聞「よりそう」の編集に携わり皆さんに役立ったかな? (水野)
- ◆ 「そこの2日いるとバテラン扱いでしょ?」「不思議な組織ですよねここは」ボランティアOGとの会話より (金野)
- ◆ 人と人、人と自然は「よりそう」きて、これからもずっと「よりそう」いくのだらうと感じました。(出澤)
- ◆ 数日間の活動でしたが増刊号の編集に携われることができて楽しかったです。(アベ)
- ◆ この節目に「よりそう」に離れて光栄です。しめあがずゆるめあがががモットーです。(ハコ)
- ◆ よりそうが今後も続けられ 沢山の生産に現場の生の声を届けていけまうように。みなさんのお力添えをお願いします。(筒井)



New Tシャツ ¥2000-で販売中!!  
(売上の一部が寄付されます)